

兵庫県保険医協会第54回総会のご案内

平素は兵庫県保険医協会の諸事業にご協力いただき、厚く御礼申し上げます。
さて 弊会はこの1年間、開業保険医の経営と生活・権利を守るとともに、国民医療の充実と向上をめざし活動してまいりました。今後とも医療・社会保障の充実と発展に一層尽力する所存です。残念ではありますが、今年も新型コロナウイルス感染症流行防止の観点から、定例の総会議事終了後、記念講演会のみで開催したく存じます(懇親会は中止いたします)。

ご多忙中、また長引くコロナ禍のおり、誠に恐縮に存じますが、ご案内いたします。
兵庫県保険医協会
理事長 西山 裕康

日時 **6月19日(日)** 会場 **兵庫県保険医協会会議室**
・13時30分～ 総会議事
・15時20分～

記念講演 **「感染症社会からみえた社会防衛の思想」**
立命館大学大学院 先端総合学術研究科 教授
美馬 達哉 先生



新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のパンデミックによって、世界のあり方が大きく変わったとされる。だが、視点を大きくとれば、「伝染病」を前にしたとき、時代が変わっても、人類は同じような対策——「科学的」とはいえないものも含めて——を繰り返してきたとも言える。ここでは、医療社会学と医学史という観点から、このパンデミックから見えてきた「社会防衛」について議論する。そこには、病者を、病に苦しむ一人の患者としてではなく、周囲に対する感染源としての統計上の陽性者1として扱う視点が色濃く影響している。社会学での「犠牲者非難イデオロギー」という概念を紹介することで、日本でのクラスター対策を持った社会的意味合いについて考察し、COVID-19 との共生に向かいつつある現在を見直していきたい。 【美馬 記】

《ご略歴・プロフィール》 1990年京都大学医学部医学科 卒業、97年京都大学医学研究科 博士(医学)、97年6月～米国国立健康研究所 国立神経病研究所海外特別客員研究員、99年12月～京都大学大学院医学研究科 脳統御医科学系研究員、2000年4月～京都大学大学院 医学研究科 附属高次脳機能総合研究センター 助教、08年5月～京都大学大学院 医学研究科 附属脳機能総合研究センター 准教授、15年9月～ 現職。 【所属学会】日本神経科学会、日本神経学会、日本生命倫理学会、日本保健医療社会学会、日本臨床神経生理学会。【資格・免許】日本臨床神経生理学会認定医、日本神経学会認定医、医師国家免許。【現在の専門分野】神経生理学・神経科学一般、医療社会学、神経内科学、応用経済学(キーワード：医療社会学、グローバリゼーション、リスク論、ニューロエシックス、神経科学、臨床神経学)

兵庫県保険医協会 北播支部 ニュース

2022年5月25日号 No.185
発行者 兵庫県保険医協会北播支部
支部長 曾野 瑞弘
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階
☎(078)393-1801 FAX(078)393-1802
http://www.hhk.jp/

診療報酬改定研究会（医科）を開催

低医療費政策の転換を



改定のポイントを解説する林武志先生（左）と、診療報酬引き上げや75歳以上の医療費窓口負担2割化中止を求める署名への協力を呼びかける曾野支部長（右）

北播支部は3月22日、小野市うるおい交流館エクラで2022年度診療報酬改定研究会(医科・入院外)をオンライン併用にて開催。医師、事務スタッフら93人が参加した。研究会では診療報酬の引き上げと医療従事者の待遇改善、75歳以上の医療費窓口負担2割化中止を求める決議を採択した。

研究会の冒頭、司会の曾野瑞弘支部長が診療報酬をめぐる情勢について報告。改定率は▲0.94%と5回連続でマイナスとされたが、必要で十分な医療を提供するためには、この低医療費政策を転換させる必要があると訴え、改定の問題点についても考えてほしいと呼びかけた。

研究会は林武志先生が講師を務め、リフィル処方箋の導入やオンライン診療の導入など改定内容のポイントを解説。参加者は熱心に耳を傾けた。

2022年度診療報酬改定特集ページ更新中

改定特集ページでは、行政関連資料や今年度の診療報酬改定に関するよくある質問などを随時掲載しております。



経営研究会を開催

安定した人材確保に 退職金制度の導入を

北播支部は、1月29日（土）に小野市うるおい交流館エクラで、経営研究会「スタッフ雇用と医院経営～退職金制度を中心に～」を開催し、協会税務講師団の松田力社労士・税理士が講演した。オンライン視聴を含め8人が参加した。

松田先生は、まず退職金の法的意義や必要性、支払い義務について解説し、退職金は、良質な労働力の確保、退職後のトラブル防止などに寄与するとした。

また、就業規則における退職金規定がある場合とない場合で、実際にどのように支払えばよいかの参考となる、退職金額や勤続年数別支給率、退職金規定のモデルにも触れながら詳細に説明。最後に、退職金支給の準備としての中小企業退職金共済制度や退職金にかかる税制も紹介した。

参加者からは「退職金規定を作成している診療所は少なく、退職時に慌てて支払うケースが多いと知った。規定を作っておくことで事前に準備ができ悩まずに済む。今日の講演を参考に、ぜひ作成したい」などと好評を得た。



講師の松田力社労士・税理士



世話人会だより

第382回5月18日（水）小野市・加東市医師会館 参加9人

◆北播支部の会員数と組織率

5/16 現在 医科173人（90%）、歯科86人（61%）

◆情勢と医療運動対策など

「新型コロナウイルス感染症をめぐる医療情勢」と「オンライン診療」、「ロシアによるウクライナ侵攻をめぐる世界情勢」について議論した。

◆当面の支部活動

7月 第38回支部総会・記念講演（Zoom併催）を開催予定

◆次回世話人会 6月15日（水）19時30分～ 小野市・加東市医師会館

お問い合わせはTEL 078-393-1801・5 長澤・平井 まで

2022年10月実施
が狙われています

署名活動にご協力下さい！

75歳以上 医療費窓口負担2倍化 中止させよう！

2021年6月、国会で75歳以上医療費窓口負担2割化法が可決されました。この法律が実施されると2022年10月から、75歳以上で年収200万円以上の人（約370万人）の医療費窓口負担が2割となります。

国会審議の中で、①2割負担導入による現役世代の負担軽減効果はわずか月額約30円であること、②コロナ禍の今、精神的にも経済的にも疲弊している中で高齢者への負担増は受診控えを招くことが、各種調査で明らかになっているにも関わらず、政府は「健康悪化には結び付かない」としていること、③2割負担の対象者を国会審議を経ずに政令によって広げることができること等、数多くの問題点が明らかになりました。

コロナ禍でただでさえ高齢者の受診控えが進んでいる中、受診抑制を前提にした窓口負担増は高齢者のいのち・健康・人権の侵害です。応能負担は窓口負担に求めるのではなく、富裕層や大企業の税・保険料負担に求めるべきです。先進国では、医療費の窓口負担は無料が当たり前です。

重症化予防のためにも、地域で患者・国民が安心して治療を受けられるよう、署名にご協力下さい。

署名用紙の注文などは TEL078-393-1807 まで

75歳以上の高齢者に行った調査で、窓口負担が2割になったら受診を控えるなどと回答した方は、約3割にのぼります。
※日本高齢期運動連絡会の調査より

北播支部ニュースへの投稿をお待ちしています！

支部ニュースへの投稿をお待ちしています。

日常診療にかかわることや、主張、趣味のお話などお寄せください。



TEL 078-393-1801 / FAX 078-393-1802 E-Mail: hirai-y@doc-net.or.jp 担当: 平井 まで